

市民会議について

目次

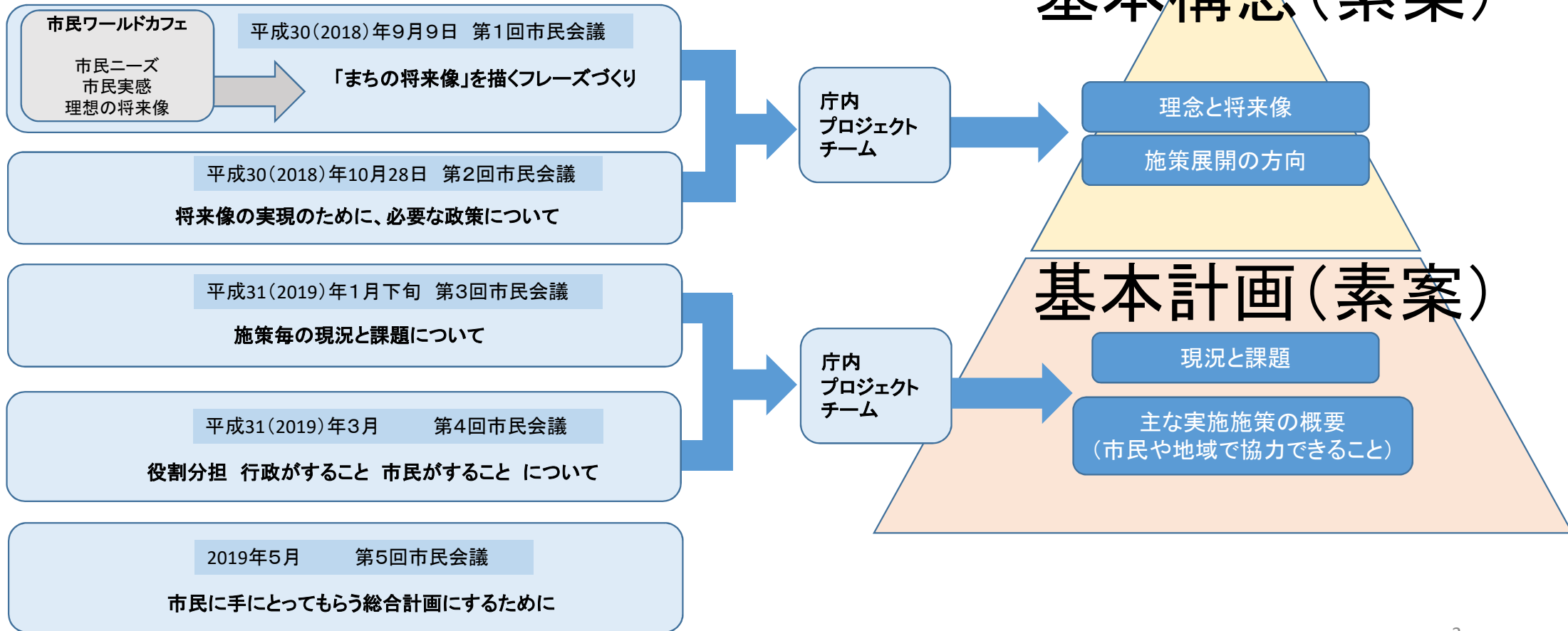
1. 市民会議の概要	3
2. 第1回市民会議概要	4
3. 市民会議の意見(第1回)	5
4. 第2回市民会議概要	6
5. 市民会議の意見(第2回)	12

市民会議概要

市民会議の構成

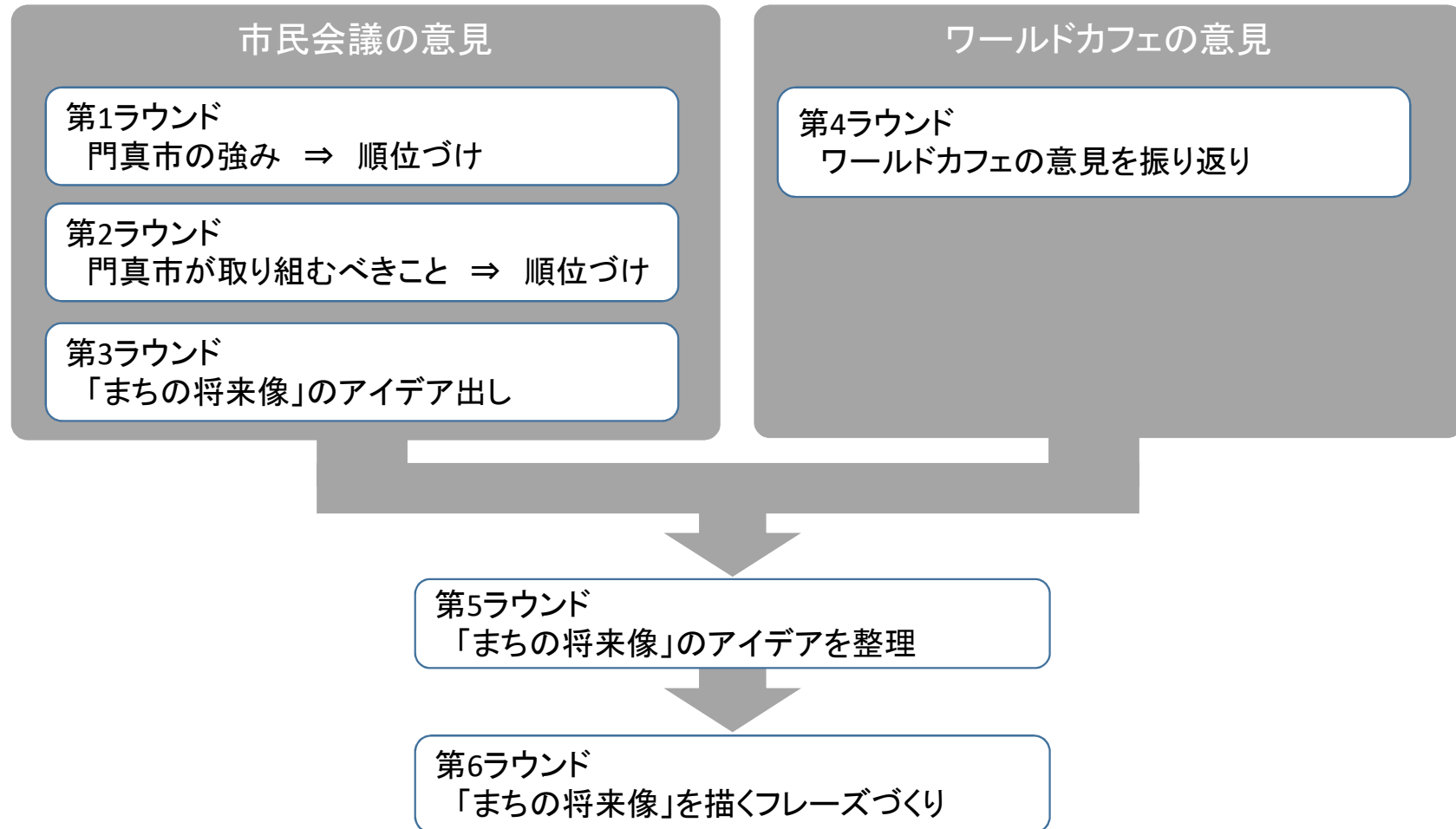
- ・18歳以上の市内在住、在勤、在学の方(公募)
- ・地域会議等、地域で活動している方

	30代	40代	50代	60代	70代	80代	総計
男性	2	2		4	8	1	17
女性	2	6	6	2	3		19
合計	4	8	6	6	11	1	36



第1回市民会議（平成30年9月9日実施）概要

門真市の強み・弱みを共有した上で、「まちの将来像」について議論し、「まちの将来像」を描くフレーズづくりに取り組んでいただいた。



市民会議の意見(第1回)

まちの将来像

<p>若者が活躍し産業・人が潤う町</p>	<p>教育と若者で支え合う安全な町</p>	<p>みんなが手をつなぎ未来を語れるまち門真</p>	<p>大切にしたいのは“こころ”世界にひとつだけのまち“かどま”</p>	<p>未来をたくす子どもが夢をもてるまち・門真</p>	<p>ぼくもわたしもお兄ちゃんもお姉ちゃんも明るく笑い声の絶えない高齢者も住み良い現役世代も元気に働いて安定した年金をもらえる町づくり</p>
-----------------------	-----------------------	----------------------------	--------------------------------------	-----------------------------	---

フレーズに込めた思い

<p>門真から若者がどんどん出て行っている。まずこの若者を呼ぶ。そのためにはやはり門真市に大学を誘致してほしい。これが長期計画である。</p> <p>まずできることは産業。門真市にできるだけ誘致してほしい。若者も働けるし、門真も税収が増えるし、そうすると人も潤う。これをフレーズに込めた。</p>	<p>「教育水準が低い、アホばかり」そんなまちには人は集まってこない。やはり教育水準を上げてもらわないといけない。</p> <p>年寄りばかりでは活力がない。若者にもっと参加してほしい。</p> <p>「支え合う」とは、“自分が自分が”というようなまちでは絶対ダメである。支えることが必要である。“自分も一生懸命がんばろう”ということが大事。</p> <p>治安の悪いまちではひとは来ない。自分たちが力を合わせて頑張らなければならない。それと自分ができることを何でもよいからひとつやってもらいたい。</p>	<p>子どものことから高齢者のことなどさまざまな立場の意見が出た。</p> <p>それらみんなが手をつなぎ、世代間の分け隔てなく、未来を語れるようにという思いを込めた。</p> <p>強みを活かす、未来に向けてというマトリクス双方を満たす要素がなかったの、これから世代間みんな考えていけるような、語り合えるようなまちになっていけばという思いを込めた。</p>	<p>「こころ」とは、人間の体のなかに宿り、意思や感情など精神活動のもとになるもの。本心。優しく思いやる気持ち。</p> <p>この「こころ」を大事にしてオンラインワンのまち門真を作りたい。</p> <p>大事にしたいのは「やさしいこころ」。学力だけではいけない。</p> <p>人間力とはなにか、それは「こころ」である。</p> <p>こころを育てないと学力も伸びない、そもそも学力とは学ぶ力である。</p> <p>勉強だけしてもろくなものにならない。「こころ」が大事である。</p>	<p>充実した教育、すべての人の人権尊重されるまち、企業・商業のいきいきするまち、緑豊かな環境、門真の「よさ」が伝わるまち。</p> <p>これらすべてのものを網羅したもの、つまり、お金がもらえて、環境がよくて、教育が進んでいるまちという夢がもてるまち門真を目指す。</p>	<p>子どもの明るい笑い声がひびくまち。そのためにも子どもが明るくなってほしい。門真には公園など遊ぶところがないので。</p> <p>若者が働きやすいまち、交通の便の良さと人が集まるまちになってほしい。</p> <p>そして私たちの世代でも安定した年金をもらいたい。</p>
--	---	---	---	---	---

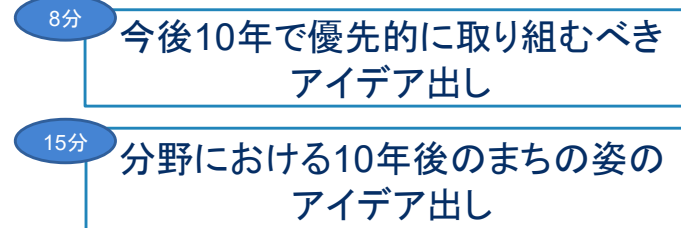
第2回市民会議(平成30年10月28日実施) 概要

各分野ごとにグループに分かれて、各テーマにおける「今後10年で優先的に取り組むべきアイデア」と「10年後のまちの姿のアイデア」について議論いただいた。

市役所サービス・まちづくり分野 グループB		
テーマ1	テーマ2	テーマ3
防災・防犯	市の魅力 市役所	生活環境 都市基盤

地域活性化・福祉分野 グループC・D		
テーマ1	テーマ2	テーマ3
コミュニティ地域の活力	雇用・産業 女性の活躍	福祉・健康・医療

子育て・教育・生涯学習分野 グループA・E・F		
テーマ1	テーマ2	テーマ3
出産・子育て	教育	生涯学習 スポーツ



× **3**テーマ

発表

* 当日の参加者の希望を踏まえ、上記グループ分けにて開催

第2回市民会議の意見(分野における今後10年後のまちの姿) 1/3

I. 市役所サービス・まちづくり分野

	防犯・防災	市の魅力 市役所	生活環境 都市基盤
	<p>■まず情報がしっかり伝わる仕組みを作っていくこと</p> <p>■どのような媒体を使えばきちんと伝わるのか。例えば、SNSや防災無線を活用すべきではないか、など</p>	<p>■“行政を改革できるまちにしよう”ということでは、“ビジョンを明確にする”“市民サービスを最優先にできるまち”“分かりやすい行政にしていく”ことが必要</p>	<p>■“何をどうしたらよいのか”スタートのところが市民側からすると見えにくい。例えば、都市開発で一中跡地にしてもどうやったらそのように決まるのかプロセスが分からない、わからないことが多いので質問ができない</p> <p>■意思決定の仕組み、流れが分かれば市民からも質問できる。そのためにもプロセスの見える化が必要。プロセスが分かれば意見もできる。そのためにも例えば官民連携チームを作る、市民ワールドカフェなどの機会を設けることも有用</p> <p>■また行政からの発信の仕方としては橋下前大阪市長のやり方を参考にする(毎日定時にプレスリリースする)</p> <p>■市民にとって“今こんなことをしているのだ”と分かれば、意見もしやすくなる。分からないので意見が言えないという循環を解消するために“見えない”ところを“見える化”することが大事である</p>

第2回市民会議の意見(分野における今後10年後のまちの姿) 2/3

Ⅱ. 地域活性化・福祉分野

	コミュニティ 地域の活力	雇用・産業 女性の活躍	福祉・健康 医療
	<p>■コミュニティ地域の活力としては“地域の交流の場を作ること”“楽しい自治会”“住みやすい町”になるとよいと考える</p> <p>■地域の交流の場を作るということでは、例えば若い人たちとの交流の場を作ることが大切である</p> <p>■コミュニティ地域の活力としては“集まる場所を増やす”ことが重要である。具体的には、魅力のある施設を作る、公園を増やす、イベントを増やす、などが挙げられる</p> <p>■イベントについては毎年同じことを繰り返すのではなく工夫（常に魅力のある企画）をすることが必要である。例えば、食品を扱うフェスティバル（コーヒーフェスティバルなど）を誘致するなど</p> <p>■10年後の姿として“コミュニティ地域の結束が強く、人の集まる活気ある環境をつくる”を目指す</p>	<p>■“男女共に高齢者が活躍できる場が少ない”“人材育成・スキルアップできる場が少ない”、これらを解決することが必要である</p> <p>■課題解決のためには、“高齢者と若者が参画できるまち”、“企業と人材の育成”、“門真市内で働く喜びが持てる社会”になることが門真市の目指す姿である</p> <p>■企業においては若者を大切にしてほしい、女性が働きやすい環境を整えることをより意識してほしい</p> <p>■大企業、大学が立地すれば、そこに雇用が生まれ、門真市の活性化が期待される</p> <p>■門真市へは、“中小企業・個人事業への支援が充実し、人材が集まり経済が活性するまち”を希望する。具体的には、門真市内で起業する際の創業補助金、活気のない商店街の個人商店が活気づくような税金緩和など</p> <p>■大学誘致についても門真市だけでなく、大阪府も交えて検討してほしい</p> <p>■女性の活躍ということでは、保育園の充実に望む</p>	<p>■独居老人、高齢者が孤立してしまうことが一番問題である。解決のためには“誘い合わせて参加できる友達づくり”が大切である</p> <p>■健康を維持できる、運動できる環境づくりも大切である</p> <p>■“高齢になっても楽しく暮らせる町作り”を目指すこと。そのためにも環境整備が必要である</p> <p>■自分たちにおいても認知症にならない努力、例えば家に閉じこもるのではなく、どんどん外に出て人と交わっていくことが大切である</p> <p>■さらに門真市においては外に出て交流したくなるまちになってほしい。あと道の整備（道がせまいので）も高齢者福祉に必要なものと考え</p> <p>■“運動不足ゼロのまちかどま”を目指す。具体的には、キレイな公園（キレイに維持する）、楽しい公園を作る。そうすると自ずと運動するために公園に人も集まり、健康もよくなると考える</p>

第2回市民会議の意見(分野における今後10年後のまちの姿) 3/3

Ⅲ. 子育て・教育・生涯学習分野

出産・子育て	教育	生涯学習 スポーツ
<p>■貧困問題であっても、就労問題であってもやはり“孤立にならない、させない町づくり”が門真でできればよいと考える</p> <p>■“安心安全の場がない”“教育が充実していない”“子育て環境の充実が必要である”“地域の活性化が必要である”という課題が挙げられた</p> <p>■目指すまちの姿としては、門真市内において交流できていて、そのような（安全安心、教育が充実し、子育て環境が充実し、地域が活性化している）場があること。そして、生活環境として例えば道路、公園、子どもが安心して遊べる環境が整っていること、教育環境として大学があるとよい、子育て環境としては施設が充実していることが希望である</p> <p>■貧困問題については経済的なものと文化的なものを分けて考えるべきであり、特に門真においては文化的環境をどうしていくか考えることが必要である</p> <p>■経済的なものではなく門真で実施されているものをどのように周知するかが重要</p> <p>■子どもが過ごす場所（安心して遊べる場所）、親の居場所（親同士が話し合う場所）が大事であり、これができるれば人間関係も充実してくると考える。門真においては人間関係が盛んなまちになってほしい</p>	<p>■教育に関しては“生きる力”“環境”“不登校の問題”について話し合い、一番大切なのは“学力”“教員のレベルをアップすること”である</p> <p>■（孤立しないように）子どもとコミュニケーションできる、対話できる先生が10年後たくさん増えているとよいと考える</p> <p>■教育の問題として“大人にも問題がある”“教育現場（に学力がアップできない問題がある）”“環境が充実していない”ことが挙げられる</p> <p>■門真市においては、学力がアップしているまち、大学があって、人材がある町になればよいと考える</p> <p>■親、先生に問題があるので“大人を教育できるまち”になればよい</p> <p>■教師のレベルの問題について話し合われた</p> <p>■文科省から“アクティブラーニング”というものが提言されており、子供が主体的にさまざまなことを行い、学習をしていくことが大事であるとされている</p> <p>■保護者においても意識が必要。“子どもが遊んでいるからダメ”ではなく“遊んでいるなかでどういう経験をしているのか”“その経験が小学校とどのようにつながっていくのか”ということを小学校の先生も含め理解することが必要である。</p> <p>■子どもたちが自身で考えていることをきちんとと言えること、それを受け止めてくれる環境があることが大切</p> <p>■子どもたちが主体的に動ける、個性のある子どもたちになってほしい、これらのことをやっている門真市の教育実践がきちんと評価されることが重要。そしてこれらを外部に発信することが必要である</p>	<p>■“みんなの門真大学”が10年後設立していただいたいなと考える</p> <p>■あと、劇団がつくられたり、市民プールが建設されていけばよいと話し合われた</p> <p>■生涯学習・スポーツの課題として“学びの場が充実していない”“スポーツをする環境”“イベントが足りない”“文化活動が充実していない（場がない）”が挙げられた</p> <p>■充実していない原因は“情報がうまく伝わっていない”ことにある。市民が情報を受け取れるまちになってほしいと考える</p> <p>■“大学があるまち”になるとよいと考える。大学ができることにより、学生が行き交って、活性化していく</p> <p>■文化芸術を発表する場がさらにあれば、まちも盛り上がり上がっていくと考える</p> <p>■子ども、大人などいろんな人が参加できるイベントが充実したまちになってほしい</p> <p>■子どもたちがいろんな経験をできることが大事。例えば門真市内には中小企業がたくさんあるのでそこでのづくりを学ぶ、個性を活かすということでは街頭イベントと一緒に参加し人間関係をつなげていく、など</p> <p>■生涯学習において、門真市が身近な文化にあふれる町になってほしいと考える</p>